

I. 日時 平成26年12月19日(金) 10:00~12:00
場所 私立大学情報教育協会 事務局会議室

II. 出席者 神原委員長、片岡委員、池尾委員、佐藤委員、藤井委員(議事録担当)、花田委員
(事務局 井端事務局長、平田職員)

III. 検討事項

1. 各委員の専門分野の視点から世界基準を見据えた必要な教育

世界基準を目指した歯科教育を検討するため、まずは前回委員会で紹介された昭和大学の事例をもとにした歯科教育で求められる授業モデル(教育プラットフォームのフォーマット案)を踏まえて、各委員の専門分野の視点から世界基準を見据えて必要な教育内容について、以下のような意見が出された。

- ・教育目標に歯科医師法第1条「歯科医療および保健指導を掌る」を掲げ、歯科医療の教育体系とは別に歯科医師が行う保健指導の教育体系を提示する必要がある(NCDの予防、HIVの体液感染を含めた感染症の予防を目指した保健指導)。
- ・明確なコンピテンシーの策定、評価方法の策定が必要で、多面的な評価を行うには外部評価を取り入れた多面的な仕組みとしてポートフォリオの導入が課題である。また、ポートフォリオの評価では、様々な経験を持った専門家から指摘をしてもらう必要である。
- ・歯科放射線学臨床能力の構築では、プロフェッショナルリズム、コミュニケーション能力、放射線学の基礎・応用、臨床能力が必要である。少人数教育(PBL)主体でICT活用により学生相互で修得。PBLを早い時期に臨床現場で実施し、実際の撮影・診断・治療にポリクリの現場で実地教育する。6年間の中で3年次に基礎、5、6年次に臨床実習を行う。リテラシー教育はICTを活用してシミュレーション教育を多様化し、eラーニングによる予習・復習を日常化する。臨床教育では放射線機器はデジタル化するためICT教育が主体となる。診断については電子化報告書により学生のデータ共有を行う。

2. 歯学のカリキュラムについて

さらに、「平成25年度医学・歯学教育指導者のためのワークショップ」の資料提供があり、医学では1年から臨床教育を行うことが提案されていることが紹介され、歯学でのカリキュラム見直し等について以下のような意見交換がなされた。

- ・多様化、高齢化の中で一律の歯科医療は成り立たないのではないかと。これまでの技術中心(痛みを取り除くための治療)の医療から予防を見据えた全身の健康を考えた医療を検討すべき。昭和大学でも、これまでのカリキュラムだけでは社会には望まれないとして、高齢化を念頭に置いている。今後の多様な歯科医療を検討していくべき。
- ・私学の歯科医師国家試験合格率の低さ、国公立全体での留年率の高さなどから、歯科医学教育体系の見直しが必要である。医療自体の問題、供給過剰問題、保健点数を上げる、入学定員の削減、国家試験のレベルを上げるなど、ネット(wiki)でも問題があがっている。
- ・世界基準の歯科医学とは、口腔(全身)の健康を目指し、どこの国でも通用する多様化した歯科医療を可能にするカリキュラム、教育手法、共通評価基準、予防を中心とする歯科医療など。
- ・米国では6年間の臨床教育を要求している。したがって、わが国でも2年間の臨床教育でなく、1年から臨床教育の場面に関わらせ、現場で気づき(プロフェッショナルリズム)を植え付け、学びを広げることが医学教育の課題となっている。歯学ではそれができていないが、その流れを踏まえて新たなカリキュラムを作るべきである。知識と技術を統合型カリキュラムという方法でない間に合わないのではないかと。
- ・昭和大学では、調べから発表までの学習の態度は医療面接ではよくできているが、技術教育は従来どおりやっている。患者への説明など対象者を意識し、1年次から歯科医院を見学し、実際の歯科医師と患者さんの対応を見学し、臨床の流れを理解するようにしている。2年次では老人施設やリハビリ施設などで見学し、3年次では診療所で臨床の現場を身近に見学し、可能な限り介補のようなものを実践できるように考えている。期間はそれぞれ2週間ほどである。これにより、医療コミュニケーション、医療面接等のスキルは高くなっている。しかしながら、臨床実習の場がないため、基礎実習(3

- ～4年次) から臨床(7年目)までの間の技術教育がない。
- ・歯科教育で初年次から臨床教育を実施できるような法改正が必要。
 - ・発展途上国と先進国との乖離がある中で、発展途上国の状況を踏まえてグローバルな視点で教育の制度が必要で、世界に通用する医療人材の育成を行っていた。栄養・薬・歯と連携した保健制度の見直しなど、教育再生会議で話題にしてもらうよう提案したほうがよい。
 - ・教育再生会議では情報活用に注目している。
 - ・国では、病院経営、保健システムなどから医療自体までの一連の医療の輸出を検討している。
 - ・本協会のFD情報技術講習会で、東京女子医科大学の吉岡理事長先生に国際基準に基づくアウトカム基盤型カリキュラムの構築と実践について講演いただくことになっている。
 - ・本協会が歯科医学教育学会等と協力して話を進めるべき。
 - ・法改正はすぐにはできないため、それまでの間、大学ではどう教育を行っていくべきかを委員会で検討していくべき。

以上の意見を踏まえ、本委員会では、東京女子医科大学のMDプログラムのような世界基準を目指した新しいカリキュラムを作り、その後で教育方法、評価などを検討していくことにした。

具体的には、東京女子医科大学のMDプログラムのアウトカム・ロードマップを参考に、歯科医師としての実践力に置き換え、ICTを活用も項目に追加し、各委員で分担して次回委員会までに作成することにした。

3. 次回委員会

平成27年3月16日(月)10:00より開催し、各委員が分担して作成する歯科医師のアウトカム・ロードマップを踏まえて、世界基準を目指した教育に関する本委員会の今後の活動内容を検討していくことにした。